

□ 次 の 文 章 を 読 ん で 後 の 間 に 答 え よ。

正岡常規が俳号「子規」を名乗ったのは明治二十二年五月のことである。子規は慶応三年九月生まれだからこのとき満二十一歳。同い年の夏目金之助が「漱石」と名乗るのも同じころのことである。

「漱石」という雅号の出典は『晋書』。「漱」は「くちすすく」と訓ずる。係楚が、「石に枕し、流れに漱く」をうつかり「石に漱ぎ、流れに枕す」と言い間違えたのを咎められたが、「漱石」とは「歯を磨く」ことで、「枕流」とは「目を洗うこと」だと言い張って断じて誤りを認めなかった故事による。つまり「漱石」とは「一度言いだしたことは引つ込めない頑固者」を意味するのである。

漱石はおそらく自らの性情をV擲論したこの雅号を選んだのは、子規がその文集『七艸集』を友人に回覧してその評を求めたのに応じて、感想を九首の七言絶句で巻末に記したときのことである。

別に私はここで日本文学史についての豆知識を披aロウしたいわけではない。そうではなくて、二十一歳の青年が、古典をW渉獵してひねりの利いた雅号を選び、即席に草した漢詩文によってその文学観を語るといふ習慣が、今から百年ほど前には存在したが、そのような知的習慣は百年経って完全に消失したという事実を指摘したいのである。

「昔の人は今より知的であった」と言っているのではない。第一、それは事実ではない。このような知的アクロバシーを演じることができたのは、当時だつて一握りのbセン良に限られていたはずだし、国民の平均的なりテラシーはたぶん今の方がずっと高い。

「昔の人は今より知的であった」のではない。昔の人は若くして雅号を選び、漢詩文を以てX慨世の言を弄することを好んだが、そのような高尚そのものが消滅したということを示し上げたいのである。

明治にあつて二一世紀になくなったもの、それは1「早く爺になりたい」という願いである。若者が「早く爺になりたい」と願うのは、日本古来の知的伝統の一つだったのである。

『徒然草』は吉田兼好が二十代から六十代にかけて書きためた断cシヨウであるが、今私たちがこれを読んでも、「これは若書き、これは晩年の作」と識別することができない。それほどに文体にも価値観にも揺らぎがないのである。

これはどういふことかというところ、兼好法師は二十代にしてすでに「ヴァーチャル爺」という想像的に確保された視点から世の中を眺めていたということである。

昔の人は「そういうこと」がたいへんに好きだった。まだご当人はうら若き青年で、地位にも名声にも色欲にも恋々たる「Y煩惱の犬」なのだが、いったん筆を執るときは、そういう俗事を涼しく超越した「爺」になつたふりをして、Z高みの見物を決めたのである。

これはなかなか優れた知的操作であると思ふ。

ヘーゲルはこのように「想像的にしつらえた他者の視座」に移行して、おのれ自身を振り返ることを「自己意識」と称した。そして「人間とは自己意識である」とdカン破したのである。

この「想像的に他者になつて、今のシステムに倣入しているわが身を省察する」という知的操作は古来日本の知識人のあいだで広く行われた「ゲーム」であつた。

紀貫之の「男もすなる日記といふものを女もしてみむとてするなり」で始まる『土佐日記』は、男が女のふりをして、さらに男のふりをするという二重の仕掛けを凝らしている（これほどラディカルな文学的冒険を試みる作家は現代にはもういない）。

2 「ヴァーチャル爺」というのは実体ではない。

自己意識となるための脱自的創造的拠点である。それはいったん3システムから「降りる」ことによつて、徹底的な批評性を獲得するための装置だったのである。

長々と文学史を講じてしまったが、私が言いたいことはもうおおよそ見当がつかれたであろう。この百年で日本人が失つたのは「漱石」に見られるような「今の私」をラディカルに擲論する視点である。自分のみすばらしい欲望や賢しさを自分で笑いのめすような笑いである。

古人は、「私はいつたい、こんなにむきになつて、何バカなことやっているんだらう？」という醒めた省察を、ひとり内省することでも、神に問いかけることでも、「他者」からの糾eタンにうなだれることでもなく、自らが想像的に創り出した、脱俗・老成した「システム外智者」の視座から行つたのである。これはきわめてコストパフォーマンスに優れた知的習慣であると私は思う。

「自分は若い」という想定は、すなわち「自分は現在の社会制度の諸矛盾については責任がなく、むしろ被

害者である」という自己免責にそのままつながる。4このような考え方が人を少しも倫理的にしないことについて、みなさますでにご案内のとおりである。

だが、それは当今のご老体が「エヴァー・グリーン」とか「死ぬまで現役」とか「老いてこそ」とか「ヴァーチャル青年」への退行に必死になることと発想としては同型的なのである。

いずれにしても5「はしたない」ことに変わりはない。

「ヴァーチャル爺の復活」。これが「日本人の生き方」についての私からみなさまへのご提案である。「何を無礼な」と怒る向きもあるうが、こちらはもう足腰立たない老人ですから、そこはひとつ、ご勘弁を。

(内田樹「子どもは判ってくれない」による)

注

アクロバシー 離れ業、曲芸。

リテラシー

読み書き能力。

嵌人 はまり込むこと。

ラディカル

革新的。

問1 傍線部a～eのカタカナの漢字を含む熟語をそれぞれ選び記号で答えよ。

- |   |     |     |     |     |     |                          |    |     |     |     |     |
|---|-----|-----|-----|-----|-----|--------------------------|----|-----|-----|-----|-----|
| a | 口ウ  | ①廊下 | ②労働 | ③暴露 | ④漏水 | b                        | セン | ①洗濯 | ②選挙 | ③戦闘 | ④専門 |
| c | シヨウ | ①消費 | ②賞品 | ③称賛 | ④紋章 | d                        | カン | ①看護 | ②鑑定 | ③完璧 | ④関門 |
| e | ダン  | ①懇談 | ②団体 | ③断絶 | ④弾丸 | 解答番号 a ① b ② c ③ d ④ e ⑤ |    |     |     |     |     |

問2 傍線部V～Zの文脈上の意味として適当なものをそれぞれ選び記号で答えよ。

- |   |       |                    |                     |                    |                    |                          |  |  |  |  |  |
|---|-------|--------------------|---------------------|--------------------|--------------------|--------------------------|--|--|--|--|--|
| V | 揶揄した  | ①自慢した              | ②さげすんだ              | ③からかった             | ④ねつ造した             | 解答番号 V ⑥ W ⑦ X ⑧ Y ⑨ Z ⑩ |  |  |  |  |  |
| W | 涉獵して  | ①広く読みあさって          | ②まねをして              | ③現代語訳して            | ④たくさん借りて           |                          |  |  |  |  |  |
| X | 概世の言  | ①天下を取ろうという気概に満ちた言葉 | ②世界の平和や国の発展を素直に喜ぶ言葉 | ③世間の現状や成り行きを憂慮する言葉 | ④政治的な影響を受けない客観的な言葉 |                          |  |  |  |  |  |
| Y | 嫉妬の大  | ①強い使命感で勤勉かつ忠実に働く者  | ②常に傍らにいて学問の手助けをする者  | ③尽きない愛情を注ぐかわいらしい者  | ④悟りの妨げとなる欲望に執着する者  |                          |  |  |  |  |  |
| Z | 高みの見物 | ①細かいところまでよく見る      | ②高貴な人が視察してまわる       | ③人を侮って見下す          | ④第三者の立場から傍観する      |                          |  |  |  |  |  |

問3 傍線部1「『早く爺になりたい』という願い」を抱く理由として適当なものを①～④から選び記号で答えよ。 解答番号 ⑪

- ①若者であつても風流な趣味を持ち雅号を使うような年寄りじみたことが高尚だと信じられていたから
- ②世俗的な関係を絶つて、架空の関係を心の中に作り出すことで「枯れた」見方ができると考えたから
- ③漢詩文や我が国の古典を知っていることが人間としての信頼性を高くするということ考えが合ったから
- ④自分の欲を離れた客観的で一段高い境地から世界を眺めるのが大人の知識人という自覚があつたから

問4 傍線部2「『ヴァーチャル爺』というのは実体ではない」とあるが、「ヴァーチャル爺」の説明として適当なものを①～④から選び記号で答えよ。 解答番号 ⑫

- ①老人でありながら、おとなしくおさまらないで体制や政治についてラディカルな言動のできる人
- ②老人ではないが、老人のふりをしてラディカルな文学的冒険を試みることができる人
- ③老人ではなくて、老人のように俗世間の欲望から離れて大所高所から物事を見ることができると
- ④老人でありながら、コストパフォーマンスの意識を高く持ち続け効率的な行動ができる人

問5 傍線部3「システムから降りる」の説明として適当なものを①～④から選び記号で答えよ。 解答番号 ⑬

- ①世の中を形成している法や道徳やしきたりから離れて独立した倫理によつて人生を生きていくこと
- ②社会大系のほんの一部でしかない自己の存在を嫌悪し、虚無的な気持ちで流浪しながら生きていくこと
- ③社会的な地位や名誉や金銭や異性などへの欲を捨てて、一般社会の人とは関わりのない存在になること
- ④コンピュータ・システムに支配されている日常の世の中から離脱して自然に身をゆだねて生きること

問6 傍線部4「このような考え方が人を少しも倫理的にしない」の説明として適当なものを①～④から選び記号で答えよ。

解答番号 14

- ① 社会制度の矛盾に対して責任は負えないという考えはあまりにも無責任で身勝手であるということ
- ② 若くありたいという考えの根底には若者としての甘えがあり、責任ある行動につながらないということ
- ③ コストパフォーマンスばかり考えて行動していると人間として他者との心の交流がなくなるとということ
- ④ 脱俗、老成した考えは保守的で創造的でないため、当時の社会の下層の人々を救済できないということ

問7 傍線部5の「ほしたくない」という理由として適当なものを①～④から選び記号で答えよ。 解答番号 15

- ① 若くありたいという願いは、自然な時の流れに逆らうことだと自覚しない愚かさを伴っているから
- ② 若くありたいという願いは、精神的な成熟を放棄することだと自覚しない愚かさを伴っているから
- ③ 若くありたいという願いは、人は皆老化するという現実を直視しない愚かさを伴っているから
- ④ 若くありたいという願いは、誰にでも死はやってくることを自覚しない愚かさを伴っているから

問8 次にあげる作品で夏目漱石の病死により未完となったものを①～⑥から選び記号で答えよ。 解答番号 16

- ① 二こころ
- ② 道草
- ③ 彼岸過迄
- ④ 行人
- ⑤ 明暗
- ⑥ 二百十日

二 次の文章を読んで後の問に答えよ。

『戦時下の日本の建築家』という本を、一九九五(平成七年)にだした。今から十三年前、私が四十歳の時である。

この本では索引をもうけた。なかに、「七・七禁令」という項目がある。戦時下に、「ぜいたくは敵」だとするaヒョウ語が、声高にさげられた。一九四〇(昭和一五)年七月七日から言いだされたので、「七・七禁令」という。これを、巻末の索引でもとりあげた。

最初、私はそれを「非常時」と「ヒトラ」の間に、いれている。「七・七」は、「ひちひち」と読む。だから、五十音順では、「ひ」のところへおさめるのがbタ<sup>タ</sup>だと、判断したのである。

だが、東京の版元(朝日新聞出版局)からはクレームがくる。どうして、「七・七」が「非常時」の次になるのか。「しちしち」だから、「し」のところへうつせというのである。

これが私には、Xのみこめない。はじめは、彼らの言っていることが、さっぱりわからなかった。関西人の私は、「七」は「ひち」であると、そう信じきっていたのである。「しち」などという下品な音はありえない、と。

しかし、国語辞典をひけば、「しち」とある。どうやら、1 現行の日本語は、東 夷どもの発音をとりいれているらしい。そのことを、四十歳の春に思い知らされた。私は自分の主張をおさめ、「七・七」を「し」のところへならかえている。そう、私は東京という権力のcヨク庄<sup>庄</sup>をうけ、屈伏をY余儀なくされたのだ。

さて、京都には「七条」通がはしっている。京阪電車にも、「七条」駅がある。地元では、「ひちじょう」とよぶ。古い世代だと、これが「ひちじょう」になる。「しちじょう」とは、まず言わない。

だが、地名のローマ字表記には「shichijo・しちじょう」とある。どうやら、中央政府の強権に、ねじふせられているようである。

先日、京阪の七条で、用がありおりました。つづいて、ふたりづれの老婦人も、ドアをとおってフラットフォームを、ふんでいる。そのすぐあとに、そのうちのひとりがおこりだした。「なんや、ここしじょうとちやうやないの、ひつちやうやんか」。

どうやら、車内アナウンスの「しちじょう」を耳にして、かんちがいをしたらしい。「し」の音で、反射的に「四条」だとうけとつたようである。

駅のdコウ内アナウンスも、「しちじょう」を、つづけている。それを聞かされた老婦人は、アナウンスにむかって、こうZ海<sup>海</sup>づいた。「しちじょうやて、まだ言うてる。おかしなこと言わんといて。そんなけつたいな日本語あらへんわ!」。

もちろん、e自セイはしたが、2その婦人をだきしめたくなくなった。おたがい、東京政府の横暴には、苦勞をさせられる。そんな思いを、名も知らぬ人とわかちあえたように感じた。四条と七条の混同をふせぐためである。

余談だが、地元の消防署では、「ななじょう」と言うようにしている。四条と七条の混同をふせぐためである。3 めいわくなことだ。

(井上章一「七条と四条」による)

問1 傍線部a～eの熟語のカタカナ部分にふさわしい漢字を選び記号で答えよ。

- |        |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |   |    |   |    |
|--------|----|----|----|----|--------|----|----|----|----|----|---|----|---|----|
| a ヒヨウ語 | ①表 | ②票 | ③漂 | ④標 | 解答番号 a | 17 | b  | 18 | c  | 19 | d | 20 | e | 21 |
| c ヨク庄  | ①欲 | ②仰 | ③抑 | ④浴 | d コウ内  | ①構 | ②港 | ③校 | ④抗 |    |   |    |   |    |
| e 白セイ  | ①生 | ②省 | ③制 | ④製 |        |    |    |    |    |    |   |    |   |    |

問2 傍線部X～Zの文脈上の意味として適当なものを選び記号で答えよ。

- |           |            |          |          |          |        |    |   |    |   |    |
|-----------|------------|----------|----------|----------|--------|----|---|----|---|----|
| X のみこめない  | ①嫌いである     | ②怒りを覚えない | ③納得がいかない | ④正しくない   | 解答番号 X | 22 | Y | 23 | Z | 24 |
| Y 余儀なくされた | ①やむを得ずそうした | ②快く受け入れた | ③恥ずかしがった | ④しないで済んだ |        |    |   |    |   |    |
| Z 毒づいた    | ①反抗した      | ②感情的になった | ③気分を害した  | ④ひどく罵った  |        |    |   |    |   |    |

問3 傍線部「現行の日本語は、東<sup>あづま</sup>夷<sup>まがひ</sup>どもの発音をとりいれている」の説明として適当なものを①～④から選び記号で答えよ。

- ① 現行の日本語がただしい発音を無視して定められてしまったこと
- ② 国語の標準語が東京の言葉を基盤として定められているということ
- ③ 現代の日本語のアクセントは伝統的な発音を考慮して決められたこと
- ④ 現代国語は関東以北の方言を主体として成立しているということ

問4 傍線部「その婦人をだきしめなくなった」理由として適当なものを①～④から選び記号で答えよ。

- ① 京都人の誇りを捨て、東京の言葉になつている駅のアナウンスに対する老婦人の怒りに共鳴したから
- ② 自分が長年親しんできた表現にこだわって駅員に毒づく老婦人がいかにも関西風でもおもしろいから
- ③ 地方の文化の良さを認めないで、東京中心主義の文化に対する日頃の反感を老婦人と共有できたから
- ④ 方言の正しさを信じて頑として譲らない老婦人に、同志にでも遭つたかのように深く共感したから

問5 傍線部「めいわくなことだ」に込められた筆者の気持ちとして適当なものを①～④から選び記号で答えよ。

- ① 東京の中央政府が地方の駅の放送にまで文化的支配の手を伸ばす横暴には、苦勞をさせられるが仕方がないという気持ち
- ② 四条と七条は混同されやすく、明確に「ななじょう」と言わないと救急の場合に混乱して困ってしまうという気持ち
- ③ 東京の政府の圧力に抵抗できずに地元の消防署では、「ななじょう」と言わざるを得ないことになり困惑する気持ち
- ④ 京都の人は「しじょう」と「ひつちょう」を聞き間違えるはずがないから「ななじょう」という必要はないという気持ち

問6 本文中に現れている筆者の思いとして適切でないものを①～④から選び記号で答えよ。

- ① 方言を標準語だと思ひこんでいた自分が恥ずかしい
- ② 東京の基準で地方の大切な文化を決められたくない
- ③ 京都には京都の言葉があり、それは正しい言葉である
- ④ もともと京都が文化の中心であり、東京は田舎であった

三

次の各□の中に漢字を入れて四字熟語として完成させよ。答えは語群から選び記号で答えよ。

- ア老□不定    イ羊頭狗□    ウ孟□三遷    エ付□雷同    オ馬耳□風
- カ電□石火    キ直情□行    ク絶□絶命    ケ威□堂々

語群

- ①東    ②光    ③径    ④和    ⑤休    ⑥母    ⑦風    ⑧肉    ⑨少

四

次のことわざ・慣用句の意味として適当なものを説明群から選び記号で答えよ。

- ア犬と猿    イ馬脚を露す    ウ狸寝入り    エ雀の涙    オはきだめに鶴

説明群

- ①眠ったふりをする事    ②仲の悪いたとえ    ③滅多にないこと    ④ともに戦う仲間
- ⑤ほんのわずかなこと    ⑥場不相応な立派な人    ⑦ぼけの皮がはがれる    ⑧すらりとした美人
- ⑨いびきの大きいこと

五

次の各熟語の構成として適当なものを説明群から選び記号で答えよ。

- 解答番号ア ④3    イ④4    ウ④5    エ④6    オ④7    カ④8    キ④9    ク④0    ケ④1    コ④2

- ア不肖    イ退廷    ウ明滅    エ報酬    オ徹夜    カ納涼    キ折衷    ク模擬    ケ顕在    コ旅愁

説明群

- ①同じような意味の漢字を重ねたもの
- ②反対または対応の意味を表す字を重ねたもの
- ③上の字が下の字を修飾しているもの
- ④下の字が上の字の目的語・補語となっているもの
- ⑤上の字が下の字の意味を打ち消しているもの

六

次の各作家の作品として適当なものを作品群から選び記号で答えよ。

- 解答番号ア ⑤3    イ⑤4    ウ⑤5    エ⑤6    オ⑤7

- ア幸田露伴    イ尾崎紅葉    ウ徳富蘆花    エ島崎藤村    オ伊藤左千夫

作品群

- ①高野聖    ②野菊の墓    ③金色夜叉    ④破戒    ⑤不如帰    ⑥五重塔    ⑦千羽鶴